

## 競技・審判上の注意

- 1 本大会は、令和4年度（公財）日本バドミントン協会競技規則、大会運営規程並びに公認審判員規程により行います。
- 2 棄権をする場合、各都道府県代表者が代表者会議までに、大会本部へその旨を申し出てください。代表者会議以降は、各都道府県代表者（代理人可）もしくは当該プレーヤーがレフェリーにその旨を申し出てください。（いずれの場合も、棄権届用紙に必要事項を記載し、提出してください）。また、他の都道府県と組んでいる場合、両方から提出してください。
- 3 大会運営規程第19条により棄権したプレーヤーは、それより後の同一種目及び今大会にエントリーしている他の種目全てにおいて出場できません。ただし、ダブルスの場合、棄権したプレーヤーのパートナーは除くものとします。
- 4 競技の品位を保つため、色付き着衣を使用する場合は（公財）日本バドミントン協会の審査合格品とします。着衣上の背面、広告、ロゴなどの表示については大会運営規程第24条を遵守してください。また、ゼッケンを使用する場合には、必ず四隅を固定してください。
- 5 試合の進行は、試合番号順に空いたコートから入れていきます。本部より試合のコール後、10分経過しても当該選手がコートに入らない場合は、レフェリーの判断により「棄権」とみなします。
- 6 試合の進行状況により、試合開始時間やコートを変更して試合を行うことがあります。コールにご注意ください。そのため選手は原則として試合開始の予定時刻の1時間前には試合会場にて待機してください。（ただし、各日におけるタイムテーブル一段目の試合はこの限りではありません。）
- 7 試合が連続することになった場合は、原則として試合終了後、15分の間隔を置き、次の試合を始めます。
- 8 試合日毎、試合開始前に、3分間の練習を行います。各コートの主審による時間計測の指示に従ってください。練習は、ダブルスの場合は、パートナーと、シングルスの場合は対戦相手選手と行ってください。コーチ等のヒッティングパートナーとは認めません。
- 9 審判構成は主審、線審2名、得点表示係1名でサービスジャッジは原則として配置しません。但し、準決勝、決勝は主審、サービスジャッジ、線審4名、得点表示係1名で行います。
- 10 本大会は敗者線審制とします。敗者となった選手は、当該コートで線審を担当してください。主審、得点表示係とシングルスでの敗者の場合、不足する線審については主催者側で行います。敗者線審につく際は（代理の方を含め）、体育館シューズ着用にご協力ください。
- 11 シャトルの交換については、主審が必要かどうかを決定します。また、使用シャトルのスピードについては、レフェリーが決定します。
- 12 給水やタオルの使用については、必ず主審の許可を得てください。容器については、スクイズボトル等のフタ付きのものとし、倒れてもこぼれないものを使用してください。飲み物用のトレイは置きませんので、コートサイドの各自のバッグ等の中に置くようにしてください。クーラーボックスの持ち込み及びコーチ席への持ち込みは認めません。なお、試合中の氷嚢の使用については、インターバルのときのみとします。
- 13 プレーヤーが汗をかき、その汗を拭い、散らす場合、またはそれ以外の行為でコートやその周辺を汚す行為については、決して容認できる振舞いではないこととみなします。
- 14 試合中のけがや病気については、主審の判断によりレフェリー（競技役員長）が呼ばれ、レフェリーがその後の判断をします。なお、試合中のけがや病気の応急処置は主催者で行いますが、その後の処置は各自の責任とします。
- 15 各コートに、コーチ席を2席置きますが、コーチはマッチ（試合）にふさわしい服装で臨んでください。モバイル機器（タブレット・携帯電話等）を使用してのコーチングを禁止します。
- 16 競技規則で認められたインターバル時に、競技区域に入れるのは同時に2人までとします。
- 17 マッチ（試合）中のコート又はコート周辺でプレーヤーの携帯電話が鳴った時は、競技規則第16条第6項（4）の違反とみなします。
- 18 レフェリーにより失格を宣告されたプレーヤーは、今大会でエントリーしているすべての種目において失格となります。
- 19 空気が調節装置の使用に関しては、大会運営規程第16条によりレフェリーが判断します。

### 【会場ルール】

いちい信金アリーナ：コート上部にあるワイヤーにシャトルが触れた場合、打者側のフォルトとします。